

エンジニアの卵が県内の自動車産業について理解を深める 平成29年度みやぎカーイノベーションリジエント人材育成センター「業界研究セミナー」

8月31日、仙台国際センター（仙台市）で、平成29年度みやぎカーイノベーションリジエント人材育成センター「業界研究セミナー」が開催された。



自社の製品について説明する自動車関連企業の担当者



参加した学生は各ブースで担当者の説明を熱心に聞いた



セミナーでは、東京ドローイング株式会社 寺岡一朗会長の講演も行われた

同セミナーは、東北の大学、高専、専門学校などに通う学生に対し、自動車産業に興味関心を深めてもらうことが目的で、今年度は約40人の学生が参加。主に宮城県内に事業所や工場を置く自動車産業関連企業10社のブースを訪れ、各企業の担当者から、事業や製品

について説明を聞いた。株式会社両毛システムズ 仙台開発センター（仙台市）の関係者は、「自動車産業やIT産業では、若い技術者を求めています。東北で学んだみなさんが、セミナーをきっかけに地元企業に就職し、力を発揮してくれることを期待しています」と話した。みやぎカーイノベーションリジエント人材育成センターでは、

産学官の連携により、自動車の設計・開発に係わる技術者育成のための研修機会を提供しており、今年度も同セミナーのほか、8月に様々な研修が行われた。

小中学生がものづくりを楽しむ 第4回サイエンスプラス



マイまくら製作の様子。ウレタン製のクッション材を詰めて、まくらを完成させた



LEDペンダント製作の様子。完成後にLEDが発光の様子を確認した



ロボット製作体験では、プログラミングも行われた（親子ものづくり体験教室）

9月30日、東北職業能力開発大学校（栗原市）で「サイエンスプラス」が行われた。親子連れなど290人が、地元企業や高校生、同大学校が企画した20のプログラムを体験し、工作や実験などを楽しみながら科学や技術の魅力に触れた。

株式会社東北イノアック（美里町）のブースでは、「マイまくら」の製作が行われた。

参加者は、自動車や住宅など様々な製品にウレタンが使われていることなどについて学んだあと、まくらづくりに挑戦。クッション

性が高い、通気性が良いなど、材質と機能が異なる4種類のウレタンを中に入れ、自分だけのまくらを完成させた。ある児童は、まくらの上に頭をのせて「フカフカして、とても気持ちがいい。これから寝る時が楽しみになりました」と話した。

本イベントは、宮城県が主催し、今年で4回目。また、同会場では、親子ものづくり体験教室「東北ポリテックビジョンin栗原」（東北職業能力開発大学校主催）が同時開催された。

浅野所長は各工程間での情報共有や製品の生産管理の取組を紹介した。



5人のパネラーと参加者で意見を交換した



コメントーターを務めた株式会社日立ソリューションズ東日本（仙台市）の菊池一彦事業戦略統括本部長は、「生産システムのIT化は、世界中で進んでいる。技術者や企業のノウハウをITシステムに活用することで、日本のものづくりの強みをさらに生かせると考えています」と述べた。

「かんな」の技でしのぎを削る 第33回全国削ろう会 蔵王大会



真剣な表情で、競技に挑む渡辺さん。1/1000ミリの薄さを追求する



伝統的な大工道具「やりかんな」の実演の様子

全国の大工や木工職人、アマチュアや学生が集まり、「かんな」を使ってうす削りの技を競う「全国削ろう会」が、9月30日と10月1日に蔵王町B&G海洋センター

（蔵王町）で行われた。33回目の開催となった今回は、初めての東北開催で、予選会には全国から参加者が集まった。競技は削りくずの長さ、幅、薄さ、美し

さなどが判定され、上位者が決勝戦に挑んだ。学生の部に参加した、宮城県立聴覚支援学校（仙台市）高等部2年の渡辺優輝さんは、「参加者の多さに圧倒されました。削ろう会の参加がきっかけで、建築の仕事に興味を持ったので、さらに技術を磨いていきたいです」と話した。

会場では、「やりかんな」や「まさかり」の実演や大工道具の展示販売会なども行われた。来年は、福岡県久留米市で開催される。

高校生が産業教育の魅力を伝える さんフェア宮城2017



来場者に、シクラメンについて説明をする南郷高校の生徒



空気圧で走る機関車の乗車体験コーナーで注意事項を説明する白石工業高校の生徒

11月12日、県庁と勾当台公園（仙台市）で「平成29年度みやぎ産業教育フェア（さんフェア宮城2017）」が行われた。各会場では農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉の各専門学科と総合学科で産業教育について学ぶ高校生と特別支援学校の生徒が、日頃の学習成果を発表した。

このうち南郷高等学校（美里町）産業技術科の生徒は、栽培した花の販売を行った。同校では、実習でマイクロバブル技術を用いた植物の水耕栽培を実施。この日も、酸素を多く含んだ水で生育を促進させたシクラメンを販売した。

社会人・高校生が自作のコマでぶつかり合う 全日本製造業コマ大戦 しばた産業フェスティバル場所

企業や団体、高校生などが自分たちで作ったコマで対決する「全日本製造業コマ大戦」が10月15日、船岡小学校（柴田町）で開催された。



コマの性能だけでなく、コマを回す方向など、回し手の駆け引きもカギを握る



会場では、子ども向けのコマづくり体験や対戦コーナーも設けられた

縦り広げた結果、宮城県工業高等学校（仙台市）機械技術部のチームが、高校生チームで唯一3位入賞を果たした。

「コマの胴体に比重が重い銅タングステンを使いました。とても硬くて削るのに苦労しましたが、社会人チームにも勝つことができてうれしかったです」と語った。

回し手を務めた生徒は、直徑20ミリ以下、全長60ミリ以内で製作したコマを「土俵」と呼ばれる台の上で回し、土俵の外に出たり止まったりすると負けとなる。先に2連勝したチームが勝ち残るトーナメント方式で戦う。

この日は、企業や高校の21チームが集まり、熱戦を

匠の技の伝承とIT活用の 取組について意見を交わす

「技能伝承とITを活用した生産性向上の取組を実施する企業の好事例発表及び意見交換会」が10月31日、ホテル白萩（仙台市）で行われ、約100人の参加者が、企業における技能伝承とIT活用の重要性について理解を深めた。

同イベントは宮城県技能振興センター（仙台市）が主催。好事例発表では、ブラスエンジニアリング株式会社仙台事業所（村田町）の浅野謙一郎所長、東北発電工業株式会社利府製作工場（利府町）の遠藤保夫副工場長、アスカカンパニー株式会社東北工場（加美町）の安彦浩輝専門職が、それぞれ「技能伝承に必要な人材育成」「ITを活用した生産性向上」「ITを活用した実技指導」をテーマに自社の取組を紹介した。

浅野所長は各工程間での情報共有や製品の生産管理の取組を紹介した。

この後行われた意見交換会では、企業で人材育成に取り組み5人をパネラーに迎え、技能伝承とITの活用について話し合われた。パネラーの一人、安彦専門職は、「熟練の技能士は、日々繰り返し再現される生産情報を高い感性によってものづくりに生かしている。その高度な技術を人材育成に生かすためには生産データを上手に活用する必要があり」と話した。

「これからのイベント開催情報」

新規大卒者等向け「業界研究セミナー」
2019年3月に大学院・大学・短大・高専・専門学校・東北職業能力開発大学校を卒業する予定の方（既卒3年以内の方を含む）を対象とした業界研究セミナーを実施します。

1T・卸売・介護・福祉・金融・ものづくりなど、各業界の関係者から、業界の現状や展望、仕事のやりがいなどを知ることができます。

【開催予定日】
日時/2月16日（金）
2月17日（土）
場所/東北職業能力開発大学校 付属青森校、付属秋田校および県立短期大学校などが参加して、「ものづくり教育訓練」の成果などの発表、展示、講演などを実施します。